三鷹市立大沢台小学校　令和８年度　【音楽】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第１学年		**〈学習状況の現状と課題〉** ・音に合わせて歌ったり、身体表現をしたりすることが好きな子が多く、活動に意欲的に取り組んでいる。 ・拍に合わせてリズムをとったり、楽器を演奏したりすることが難しい児童がいる。 ・楽曲の特徴に気付き、味わって聴いている。	**〈指導方法の課題〉** ・鍵盤ハーモニカのタンギングや運指を正しく身に付けるためには個別指導が欠かせないが、授業時間だけでは不十分である。 ・基本的な知識や技能が身に付いていない状態で、音楽活動への興味・関心を維持していくことが難しい児童がいる。 **〈授業改善策〉** ・児童が親しみやすい楽曲を選び、気付いたことや感じ取ったことを音楽で表すようにさせる。 ・身体や楽器を使って、リズム打ちに慣れさせ、リズム感を育てていく。 ・鍵盤ハーモニカについては、丁寧に指の使い方や息づかい（タンギング）を指導し、音色のよさや面白さに気付かせ、音を合わせて演奏する喜びを味わわせる。また、個人練習と全体練習のバランスを考え、家庭学習も取り入れながら授業を計画する。 ◎身体表現、歌唱、楽器の演奏、記述など学習用タブレット端末などのICT機器も用いていろいろな表現方法を取り入れ、自分らしく表現活動を楽しめるよう工夫する。
第２学年	**〈成果〉** ・元気に歌を歌ったり、リズム打ちをしたりして、想像を膨らませながら楽しく学習に取り組むことができた。 ・楽譜を見ながら、リズム打ちが出来るようになった。 ・様々なジャンルを鑑賞する中で多くの表現があることを知り、音楽を楽しんで聴くことができた。 〈課題〉 ・学習に対する意欲の差があり、集中が続かない児童も見られた。 ・意欲的に取り組むことができたが、運指が確実ではない児童が数名いた。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・音楽に対する興味・関心が高く、リズム遊びに意欲的に取り組む児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカの演奏は好きな児童が多く、練習も熱心に行っているが、正しい指使いへの意識が低い。 ・音楽的な表現を楽しみ、生き生きと音楽活動に取り組む児童が多い。一方で、表現への意欲が低い児童もいる。	**〈指導方法の課題〉** ・児童の興味・関心に応じた題材や活動を選択して、どの児童にも分かりやすい言葉掛けを行う必要がある。 ・友達と関わることで深めていく学習活動が少ない。 ・集中力を持続できるような工夫や個別指導をさらに充実させる必要がある。 **〈授業改善策〉** ◎身体を動かす活動やリズム遊びを取り入れた表現活動を工夫し、身体全体で拍の流れやリズムの違い、曲想を感じ取ることができるような学習を行う。 ・音楽表現に対する意図や音楽鑑賞で感じたことなどを伝える際、どのように伝えたらよいのかがわかるように「音楽でよく使う言葉の例」を掲示しておく。 ・児童の興味・関心を把握し、教科書を基本として、題材に合った教材を厳選する。
第３学年	**〈成果〉** ・拍やリズムを身近に感じ、音楽を楽しく学ぶ雰囲気で取り組めた。 **〈課題〉** ・音楽を形づくっている要素を基に指導を継続し、基礎知識を身に付ける必要がある。 ・感じ取ったことを言語表現できるように、語彙力を増やすことが必要である。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・楽曲のよさを感じ取って楽しみながら表現したり鑑賞したりすることはできる。楽曲の音楽を形づくっている要素をもとに思考して、どう表現したり鑑賞したりしたらいいのか考えを深められてはいない。 ・基礎的な技能は向上しているが、曲想にふさわしい演奏法や表現したい思いを表すための技能がつながっていない。	**〈指導方法の課題〉** ・楽譜を見てリズムや旋律、声部の重なり方、曲全体の構成などの特徴を十分把握させる必要がある。 ・個別最適な学びができるような手だてを工夫する。 **〈授業改善策〉** ・ねらいを明確にし、学習に迷いが無いようにする。 ・一人でじっくり考える場面やグループ活動など、題材の狙いや児童の実態に応じて多様な学習形態を設定する。 ◎思いや意図を言葉や音楽で伝え合ったり、実際に様々な奏法で演奏したりすることを繰り返し試す。音楽の語彙を表す言葉を掲示し、言語を増やすことを意識して発言したり、相互評価したりするときの言葉を意識させる。 ・学習の進度に合わせて、学習を選択できるような手だてを工夫する。
第４学年	**〈成果〉** ・リコーダーの学習に向上心をもって取り組むことができた。 ・感じ取ったことを自分の言葉で表現したことを学級で共有し、深めることができた。 **〈課題〉** ・リコーダーの運指がスムーズに出来るよう、個別に対応する必要がある。 ・音楽を形づくっている要素を基に指導を継続し、基礎知識を身に付ける必要がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・音楽の知識や技能が豊富な児童が積極的に発言して授業を先行する場面が多く見られる。 ・表現したい思いと、実際の演奏に違いがあることを把握して、改善していく学習方法を定着させる。 ・リコーダーに苦手意識がある児童が集中できていないことがある。個別で課題解決ができる手だてが必要である。	**〈指導方法の課題〉** ・明確な目標の設定をする。 ・音楽に対して苦手意識をもっている児童がじっくりと音楽と向き合う時間の確保をする。 ・全員が達成感や充実感を十分に味わうことができる授業になっていない。 **〈授業改善策〉** ・曲の中に含まれるたくさんの音楽を特徴付けている要素から、本時に身に付けさせることを厳選し、学習計画を立てる。 ◎音楽に対して苦手意識がある児童に対しても、基本的な既習事項の確認など、発言する機会を毎時間設定し、皆で考えながら楽しく学んでいく雰囲気を作る。 ・新しい学習の導入では、既習事項や日常の生活と絡め、児童が理解しやすく、学習の意欲が高まるような工夫をする。
第５学年	**〈成果〉** ・児童のつぶやきや発言を拾いながら学習活動へと導き、交流したり、共有したり、共感し合ったりしながら取り組むことができた。 ・様々な楽器に触れて、友達と音を重ねる楽しさを味って学習ができた。 **〈課題〉** ・音の重なりのよさを味わって演奏するために、聴き合うことが不十分である。 ・音楽を形づくっている要素を基に指導を継続し、基礎知識を身に付ける必要がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・題材によっては表現するために必要な技能が十分ではない。 ・音楽に関する語彙が少なく、聴いて感じ取ったことを言葉にすることが苦手である。 ・音楽的な表現を楽しみ、生き生きと音楽活動に取り組む児童が多い。一方で、表現への意欲が低い児童も少数いる。 ・自分の演奏に集中する児童が多く、聴き合いながら演奏することに苦手意識がある。	**〈指導方法の課題〉** ・個別最適な学びを効果的に行っていくことが課題である。 ・確実な音取りや演奏技能を向上させるための練習時間を十分に確保する。 **〈授業改善策〉** ・授業の随所で机間指導や個別指導を効果的に行い、分からない児童や頑張っている児童に声をかけるようにする。 ・聴き合う活動を多く取り入れ、自分の音とどのように重なるのかをイメージをもたせてから、音の重なりを演奏するようにする。 ◎音楽的な表現を全体で共有することで、新たな発見や自分の意見を発表しやすい環境をつくることで、言語表現が苦手な児童も積極的に発表できるようにする。
第６学年	**〈成果〉** ・思いを一つにして表現するよさを味わって学習に取り組むことができた。 ・グループ活動やペア学習などの少人数での活動を意図的に取り入れ、積極性を促すことができた。 **〈課題〉** ・一人ひとりの技能を向上させ、合唱や合奏の演奏表現力を高めていく必要がある。 ・音楽を形づくっている要素を基に指導を継続し、基礎知識を身に付ける必要がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・音楽的な表現へのあこがれや意欲をもっている児童が多数見られるが、題材によっては表現するために必要な技能が十分ではない。 ・音楽に関する語彙が少なく聴いて感じ取ったことを言葉にすることが苦手である。 ・音楽的な表現を楽しみ、自らの思いを演奏に生かそうとする児童が多い。	**〈指導方法の課題〉** ・表現に必要な基本的な技能を身に付け、自信をもって演奏に臨めるようにすることが課題である。 ・学級全体で表現を高め合う雰囲気をつくっていくことが課題である。 ・全員が達成感や充実感を十分に味わうことができる授業になっていない。 **〈授業改善策〉** ◎互いの演奏をよく聴き、相手の演奏の良さを言葉にして伝え合うことを習慣化させることで、皆で一つの曲をつくり上げる素晴らしさや達成感を味わえるようにする。 ・音楽表現に対する意図や音楽鑑賞で感じたことなどを伝える際、どのように伝えたらよいのかがわかるように「音楽でよく使う言葉の例」を掲示しておく。 ・児童によって音楽的な知識や技能に差があるので、段階的な課題を準備して各自が目標をもてるようにする。